

無料公衆無線LAN環境整備促進

- 全国へのWi-Fiスポット拡大
- 共通シンボルマークの導入
- 利用開始手続きの簡素化・一元化

多言語音声翻訳対応の拡充

- 空港等日本の玄関口での活用
- 医療、交通、観光等の対応拡充

デジタルサイネージの相互運用

- 災害時等緊急情報の一斉配信
- スマホ連携で個別最適情報入手

放送コンテンツの海外展開

- 日本の魅力を継続的に海外発信
- 観光需要の増加や地域製品の販路開拓といった波及効果、日本に対するイメージ向上

〈2020年でのショーケース〉 ～社会全体のICT化が実現～

接続の壁をなくす

- 外国人の導線における主要な観光・防災拠点にWi-Fiスポットを整備
- Wi-Fi利用認証一元化により、全国で面倒な手続きなく利用可能

言葉の壁をなくす

- 高精度に翻訳可能な言語を10言語に拡大
- 旅行会話だけでなく医療、生活分野等で実用レベルの翻訳を実現

情報の壁をなくす

- デジタルサイネージにより高度なエリアマネジメント、個人に最適な情報取得が可能。
- 緊急災害時のスムーズな誘導が可能。
- 全国・世界で4K・8Kパブリックビューイングの実現

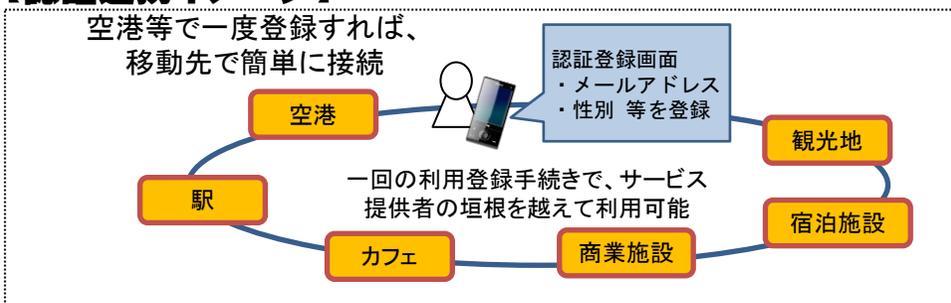
日本のプレゼンス向上

- 産官のオールジャパン体制で日本の魅力を発信
- 放送コンテンツ海外輸出額の増加(2018年に現在の3倍超を目指す)
- 訪日外国人観光客の増加(2020年に2,000万人を目指す)
- 日本の食品輸出額の増加(2020年に1兆円を目指す)

無料公衆無線LAN環境の整備の促進

- 2020年までに外国人の導線における主要な観光・防災拠点にWi-Fiスポットを整備するため、自治体への支援を実施。
- 訪日外国人旅行者が快適に利用できる無料公衆無線LAN環境の整備を促進するため、総務省、観光庁が事務局となり、駅、空港等のエリアオーナー、自治体、通信事業者等から構成される協議会（無料公衆無線LAN整備促進協議会）を昨年8月に設立。本協議会を通して無料公衆無線LANの整備促進、共通シンボルマークの導入、利用可能場所等の周知、利用開始手続きの簡素化・一元化等を推進。

【認証連携イメージ】



【整備イメージ】



【推進体制】

無料公衆無線LAN整備促進協議会



【整備場所】

全国の交通・商業施設、観光、防災拠点等

【スケジュール案】



「グローバルコミュニケーション計画」の推進

○世界の「言葉の壁」をなくしグローバルで自由な交流を実現する「グローバルコミュニケーション計画」を推進するため、情報通信研究機構が開発した多言語音声翻訳技術の精度を高めるとともに、民間が提供する様々なアプリケーションに適用する社会実証等を実施する。これにより、ICTを活用したイノベーションを加速し、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの際には、本技術を活用して「言葉の壁」がない社会をショーケースとして世界に発信する。

・多言語音声翻訳の対応領域、対応言語を拡大するための研究開発

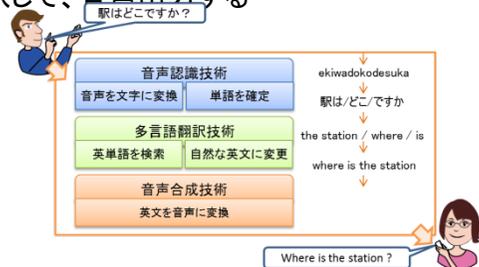
多言語音声翻訳技術の翻訳精度を向上し、対応言語数を拡大する。また、雑音対策や長文翻訳など、翻訳精度の向上に向けた研究開発を実施する。

・病院、商業施設、観光地等における社会実証

産学官の連携により、多様なアプリケーションの社会実証を集中的に実施する。

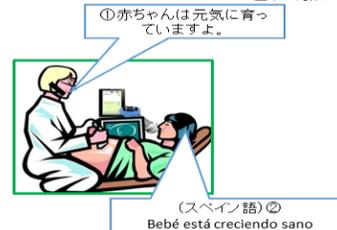
多言語音声翻訳システムの仕組み

スマートフォンなどに話しかけると即座に他の言語に翻訳して、音声出力する



病院

多言語対応ヘッドセット等のウェアラブル機器を用い、症状や病名の翻訳など 医師と患者のコミュニケーションを支援



ショッピング

多言語対応型レジ端末により、商品の購入や問合せなど、外国人客の要望にきめ細やかに対応



【推進体制】

総務省(メーカ、大学等研究機関による研究開発)

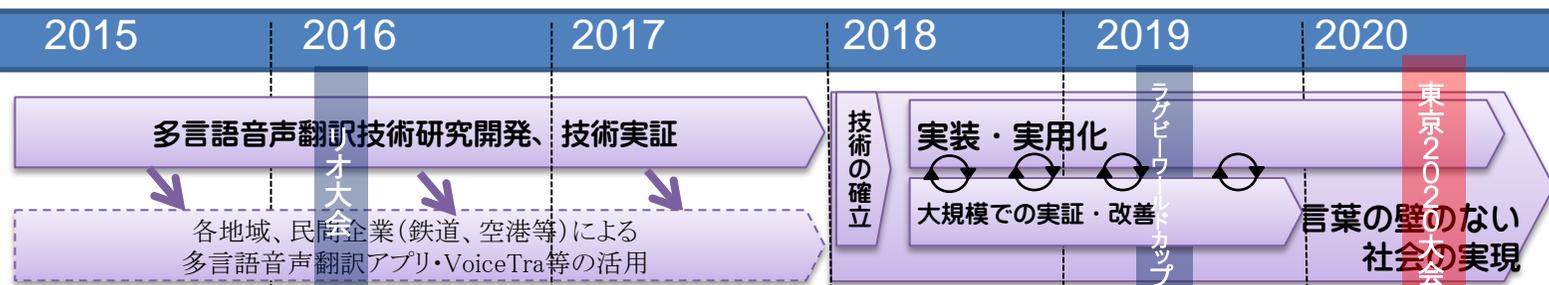
グローバルコミュニケーション開発推進協議会(産学官で構成) 等

【利用場所】

全国(成田空港や京浜急行電鉄(次ページ参照)、東京都※等)

※東京マラソン2015において試験利用を実施

「グローバルコミュニケーション計画」の推進



多言語音声翻訳システムの活用事例

成田国際空港

- ターミナル館内の巡回案内スタッフが「iPad」を活用して、最新のフライト情報や忘れ物の情報等の他、空港内の店舗、サービス施設等を写真や地図を用いて案内。
- さらに、多言語音声翻訳アプリ「NariTra」を活用し、巡回案内スタッフが、中国や韓国からの来客にも母国語で案内を行っている。



成田国際空港のホームページでアプリを紹介
Google PlayやApp storeでダウンロード可能

【出典】成田国際空港ホームページ

京浜急行電鉄

- 2014年3月の羽田空港国際線発着枠の拡大等に伴い、同年7月から品川駅と羽田空港国際線ターミナル駅に「VoiceTra4U」を試験導入。
- 主に改札や忘れ物センターで片言での対応が困難な場合、羽田空港国際線ターミナル駅、京急ツーリストインフォメーションセンターで英・中・韓以外の対応が必要となった場合等においてVoiceTra4Uを活用している。



品川駅(改札)



羽田空港国際線ターミナル駅(改札、京急ツーリストインフォメーションセンター)

【出典】京浜急行電鉄より提供

デジタルサイネージは公共空間等に数多く設置され、非常に有用な総合情報通信端末として進化。
2020年には、下記のような利用シーンが実現。

【災害情報やオリンピック等情報などの一斉配信】

災害等の緊急時における災害情報、避難所情報等や、オリンピック・パラリンピックの情報等をデジタルサイネージから一斉配信

【多言語対応】

訪日外国人に対して、観光情報や競技情報、災害情報等を多言語で情報提供。サイネージにかざしスマホタブレットに自国語で表示。

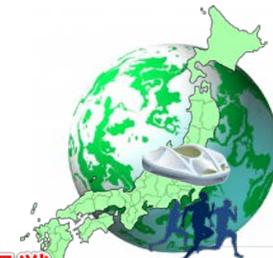
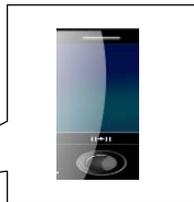
【個人に最適な双方向サービス】

スマートフォン等の他のデバイスとの連携等により、個人に最適な双方向による情報提供、Wi-Fiスポットとしての活用、美術館や博物館、レストラン等のクーポンの入手等

【全国・世界で4K・8Kパブリックビューイングの実現】

開催地東京のみならず、地方、海外においても、オリンピック・パラリンピックの感動を共有できる場の提供

【実現イメージ】



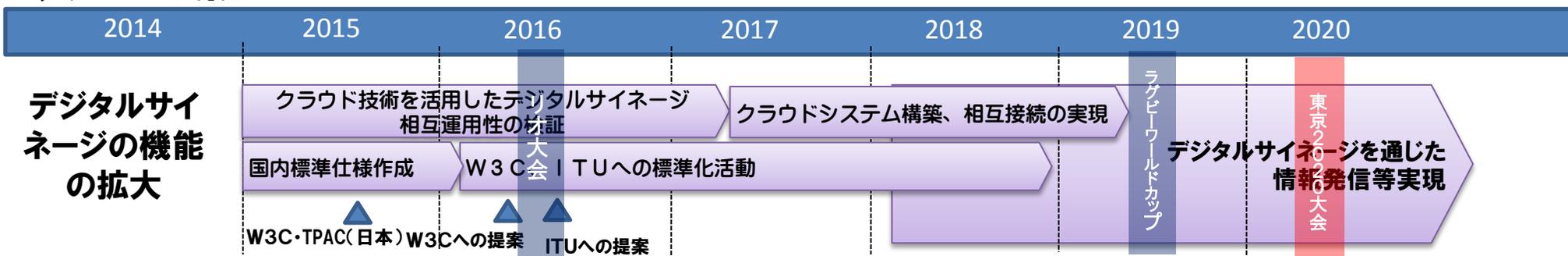
【推進体制】

標準化：デジタルサイネージコンソーシアム、国、設置：東京都、民間企業等

【整備場所】

東京都ほか全国

【スケジュール案】



放送コンテンツの海外展開

放送コンテンツ海外展開の目指すもの

放送コンテンツ
の海外展開

様々な分野への波及

- ・外国人観光客誘致
- ・地域活性化への貢献
- ・流通、ファッション、食、音楽等の発信

国家戦略への貢献

「ビジット・ジャパン戦略」



「クール・ジャパン戦略」

「地方の創生」

【これまでの取組の例】

◆「Welcome To The Railworld 日本編」(マレーシア)

- 日テレ・マレーシアMediaPrimaによる共同製作。日本各地の観光地や食・文化を、マレーシア人タレントが鉄道を通じて紹介。
- 取材地選定等で観光庁・JNTOからの協力。また、高速鉄道のPRを目的として東北新幹線を取材。
- 2015年1月から毎週木曜21:30～22:00に放送(全10話)。



番組で取材する新幹線



沖縄(玉泉洞)での取材の様子

It doesn't look like a dragon...but it looks like a dragon egg

【今後の取組】

- 関係省庁(総務省・経産省・外務省・観光庁)が密接に連携しながら、コンテンツ製作・現地化(字幕付与等)から海外での発信・プロモーション活動まで、一体的、総合的かつ切れ目なく支援を実施。

【推進体制】

(一社)放送コンテンツ海外展開促進機構を中心に、放送局や権利者団体が協力しつつ推進。

【スケジュール案】

【展開先】

- ・当面はASEANをはじめとするアジア等の新興国
- ・2020年に向けて世界各国

